

第5学年国語科学習指導案

児童 5年3組 男子19名 女子10名 計29名
指導者 松本 洋介

- 1 単元名 人物の考え方や生き方をとらえよう
教材名 「わらぐつの中の神様」

2 児童と単元について

(1) 児童について

本学級の児童は、1学期の物語文「新しい友達」の学習において、主題をとらえることを最終目標として学習をしている。そのためには「物語の設定を正しく読み取る力」や「叙述に沿って心情を読み取る力」が必要と考え、「物語の設定を正しく読み取る力」では、場面ごとに見出しを付け、物語の大体の内容をつかむこと、「叙述に沿って心情を読み取る力」では、心情曲線を作ること、主人公の心情が大きく変わる一文を探し、その前後の主人公の気持ちの変容をとらえることなどを読みの方法として経験している。また、主題をとらえる学習では、「だれが、何によって、どうなる話」と一文で要約する活動を通して、主題にせまっている。場面ごとに見出しを付ける活動は物語文では、初めての活動であったため、とまどっている児童も多かったが、場面が進むにつれて、8割の児童が自力で見出しを付けることができた。また、心情曲線も初めての取り組みであったが、9割の児童が、根拠となる叙述を基にどういう気持ちなのかを想像しながら読むことができた。場面の移り変わりによって主人公の心情の変化が視覚的に読み取れるため、その後の主人公の心情が大きく変わる一文を探す活動や、「だれが、何によって、どうなる話」と一文で要約する活動に役立った。心情曲線が学習を進める上で有効であることは、児童も自覚している。

本教材「わらぐつの中の神様」を読ませ、感想を取ったところ、額縁構成のおもしろさに目を向けていた児童や構成の効果を感じ取っている児童が多数いた。このことから、この単元では、マサエの変容をしっかりと読み取っていきいたいと考える。

(2) 単元及び教材について

本単元「人物の考え方や生き方をとらえよう」は、物語「わらぐつの中の神様」の読みを通し、人物の考え方や生き方をとらえる単元とする。

この教材は、がんぎ、わらぐつ、雪げた等に見られるように雪国を舞台とし、また、方言が多用されていることから、地方色が濃く出ている物語といえる。その構成は、現在 過去 現在の額縁構成となっている。2場面の昔語りを聞く前のマサエと、聞いた後のマサエの変容は、「人物の考え方や生き方」をとらえる上での大切な叙述となる。そして、時間の行き来や場面の飛躍的な転換もおもしろさであり、展開の工夫であると考え。また、わらぐつや雪げた等の小道具の味わい、印象的な台詞等、読み手の注目の仕方に応じて様々なおもしろさを感じ取ることができる。このように、行動描写や会話文から人物像をとらえさせるとともに、場面構成の工夫や小道具がもたらす効果など、様々な文学の読み方を指導できる教材であると考え。物語中の「おみつさん」は、正直者で、やさしく、何よりも純粋であることから児童は共感的にとらえるだろう。そんなおみつさんを通して、人物の考え方や、生き方をとらえていきいたいと考えこの教材を選定した。さらに、1の場面では、わらぐつや神様に対して「みったぐない」「そんなの迷信でしょ」といっていたマサエが、おばあちゃんの昔話を聞くことで3の場面では「雪げたの中にも神様が」とまで、変容していく。このことは、2場面でのおみつさんや大工さんの

「相手の身になって、心を込めて」といった、わらぐつを通してお互いの価値観を認め合う心の通い合いが、マサエの変容に大きくかかわっているととらえる。しかも、その二人が実の祖父母であるという発見が、マサエの大きな感動として描かれており、これは、読み手である児童の感動でもあると考える。

(3) 付けたい力と読みの方法 【付けたい力】 読みの方法

【登場人物の心情や人物像を叙述と結び付けながら読み取る力】

登場人物の言動を根拠にとらえる。
 心情の変化を対比しながらとらえる。
 ・考え方 ・人柄

本単元では、2場面でおみつさんと大工さんの人物像を、1と3の場面でマサエの心情の変化をとらえながら読み進めていく。まず、1場面におけるマサエの心情を読み取る。ここで描かれているマサエは、甘えん坊で人任せ、おばあちゃんの話「そんな迷信でしょ。」と、まるで相手にしないマサエが読み取れる。次に、2場面において、人物像を読み取る際には、おみつさんと大工さんの考え方や人柄が分かる叙述に着目させながら読み進めていき、その人柄や考え方が、わらぐつを通して二人を結び付けていることを読み取らせたい。そして3場面では、2場面の昔語りを聞いたことによって、どのように変容しているのかを読み取っていく。おばあちゃんの話を書くことによって、マサエの心情はどう変容したのかということ、行動や会話に焦点を当て、さらに1場面と対比させながらしっかりととらえさせたい。

3 単元の目標及び評価規準

	単元の目標	評価規準
国語への 関心・意欲・態度	登場人物の人物像や心情を叙述に沿って読もうとする。 物語のあたたかさにひかれて、心に残る言葉や文章、情景や場面を楽しんで読もうとする。	・登場人物の人物像や心情を叙述に沿って読もうとしている。 ・物語のあたたかさにひかれて、心に残る言葉や文章、情景や場面を楽しんで読もうとしている。
読む能力	会話文や行動の描写部分の叙述を手がかりに、登場人物の考え方や人柄を読み取ることができる。 読むこと ウ	・会話文や行動の描写部分の叙述を手がかりに、登場人物の考え方や人柄を読んでいる。
言語についての 知識・理解・技能	理解するために必要な語句について、辞書を使って調べることができる。言語事項 ウ(ウ) 方言と共通語の違いを理解し、そのよさを味わうことができる。 言語事項 カ(イ)	・理解するために必要な語句について、辞書を使って調べている。 ・方言と共通語の違いを理解し、そのよさを味わっている。

4 単元の指導計画及び評価規準(10時間)

段階	時	学習活動	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
見 通 す	1	全文を通読して、大体的内容をつかみ、初発の感想を書く。	文章に興味をもち、進んで感想を書こうとしている。	話の大体の内容をつかみ、登場人物に自分の思いを重ねたり、共感した	新出漢字や読み替えの漢字を正しく理解している。物語を理解するために必要

		新出漢字・読み替え漢字、語句の意味を確認する。	(観察・シート)	りして、初発の感想を書いている。 (シート)	な語句について、辞書を利用して調べている。 (観察、発言)
	2	単元名、リード文から単元全体の学習のめあて、流れをつかむ。学習計画を立てる。	今後の学習の仕方に興味をもっている。(観察・発言)		
深める	3	設定をとらえる。 1場面でのマサエの人柄を読み取る。	1場面でのマサエの人柄を積極的に読み取ろうとしている。 (観察、発言)	登場人物をとらえ、その中で1場面でのマサエの人柄を読み取っている。 (観察・ノート・発言)	語感や文の使い方について考えたり、語感や文に関心を持ちたりして読んでいる。(観察、発言)
	4 5	2場面でのおみつさんの人物像を読み取る。		わらぐつの叙述とわらぐつを作るおみつさんの考えを対応させながら、おみつさんの人柄を読み取っている。 (観察・ノート・発言)	
	6	なぜ大工さんは、おみつさんに結婚を申し込んだのか、読み取る。		大工さんのわらぐつに対する見方や考え方、おみつさんとの人柄の重なりを基に、なぜ結婚を申し込んだのか読み取っている。 (ノート・発言)	
	7 本時	3場面での会話を手がかりにして、マサエの心の動きを考えると、人物の考え方や生き方を読み取る。		神様がいることを信じるようになったことと、昔話の人物が祖父母であることの発見の喜びから、玄関に飛び出していったマサエの心情を読み取っている。 (観察・ノート・発言)	
まとめる	8	杉みき子の「春さきのひょう」を読み、大体的内容をつかむ。	文章に興味をもち、進んで読み進めようとしている。 (観察・発言)	話の大体的内容をつかんでいる。物語の構成及び登場人物をとらえている。(発言・ノート)	
	9	学習した方法を使って「春さきのひょう」を読み、人物の考え方・生き方について読み取る。		既習方法を生かして登場人物の考え方・生き方について読み取っている。 (観察・ノート・発言)	
広める	10	方言と共通語のそれぞれによさと役割を理解する。			方言のよさ、役割などを理解している。 (観察・シート・発言)

5 本時の指導 (7/10)

(1) 本時の目標

神様がいることを信じるようになったことと、昔話の人物が祖父母であることの発見の喜びから、玄関に飛び出していったマサエの心情を読み取ることができる。

(2) 本時の評価の観点と具体の評価規準

観点	具体の評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する児童への手立て
読む能力		<p>B プラス</p> <p>「かかえて」という表現にまで着目して、玄関に飛び出していったマサエの心情を読み取っている。</p> <p>例) マサエは、始めは神様なんて迷信だと思っていたが、おばあちゃんの話の聞いて、神様の話を信じるようになったし、昔話に出ていた人がおじいちゃんとおばあちゃんだったことに気付いたから、うれしい気持ちでさけんで飛び出していったのだと思う。また、おばあちゃんが大切にしている雪げたをマサエも大事だと思ったから、雪げたを抱えるようにしておじいちゃんを迎えに行ったと思う。</p>	<p>神様がいることを信じるようになったことと、昔話の人物が祖父母であることの発見の喜びから、玄関に飛び出していったマサエの心情を読み取っている。</p> <p>例) マサエは、始めは神様なんて迷信だと思っていたが、おばあちゃんの話の聞いて、神様の話を信じるようになったし、昔話に出ていた人がおじいちゃんとおばあちゃんだったことに気付いてうれしい気持ちになったから飛び出していったと思う。</p>	<p>1 場面でのマサエの言動を詳しく確認しながら、神様なんて信じていないマサエを確認する。それが、信じるようになったと分かる叙述を3場面から拾わせる。視点は、マサエの会話文や行動の様子分かる文に立ち返らせる。</p>

(3) 展開

段階	学習活動 発問 ・ 期待する児童の反応	教師の関わり方 ・ 留意事項 評価
見とおす 5分	<p>1 学習課題を確認する。</p> <p>なぜマサエは、げんかんへ飛び出していったのだろう。</p> <p>2 読みの視点を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>・ マサエの会話文や行動が表れている叙述</p>	<p>・ 心情の変化を押さえることを確認する。</p>
深める	<p>3 学習場面を音読する。</p> <p>・ 3場面の音読</p> <p>4 課題に対して、自分の考えをもち、話し合う。</p> <p>(1) 1場面でのマサエの考え方を確かめる。 1場面でのマサエはおばあちゃんの話の信じていましたか。 ・ 信じていない</p> <p>(2) 3場面でのマサエの変容を読み取る。 3場面では、マサエは、赤いつま皮の雪げ</p>	<p>・ 視点を意識しながら、内容をとらえさせたいので、各々の速さで微音読させる。</p> <p>・ 1場面でのマサエの考え方や人柄を既習の学習掲示物を効果的に使い確かめる。焦点化させるのは、おばあちゃんの「神様がいる」と言うことに対しての「信じていない」というマサエ。</p> <p>・ 児童の反応を取り上げる順序は、まず、神様を信じているマサエ。その根拠となる叙述は、</p>

深める	<p>たをかかえたまま「おかえんなさあい」とさけんで、玄関へ飛び出していきましたが、マサエは、なぜ飛び出していったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神様を信じるようになったから。 	<p>「雪げたの中にも・・・」である。この叙述からどんな神様がいるのかという話し合いにつなげたいので、始めに扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かかえて」という叙述に着目させ、単に「持つ」ではなく、大事そうに雪げたを扱っているマサエを想像させる。このことは、深める段階で、おばあちゃんがとても大事にしている雪げた、神様が宿っている雪げたという読み取りの伏線につながる。
35分	<p>(3) どんな神様がいるのか考える。</p> <p>雪げたの中にはどんな神様がいるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を思いやる神様 ・人に対する優しさをもった神様 <p>「雪げたの中にも」とありますが、ほかには何に神様がいるのでしょうか。そしてどんな神様でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらぐつの中 ・使う人の身になって心をこめる神様 <p>マサエが飛び出していったわけは、他にはないでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいちゃんやおばあちゃんに対する見方(気持ち)が変わったから。 <p>(大工さんやおみつさんは実は、身近なおじいちゃんやおばあちゃんだったことが分かりうれしくなったから。)</p> <p>5 課題に対するまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「雪げたの中にも」から、わらぐつの中にも神様がいることをマサエは感じていることをとらえさせたい。さらにそれぞれの中にいる神様が、共通していることを話し合いを通してとらえさせたい。 <p>・次に取り上げるのは、昔話の人物が、実は、おじいちゃんとおばあちゃんだったことに気付いてうれしくなったマサエ。根拠となる叙述は「パチンと手をたたいて、目をかがやかせました。」「『おかえんなさあい』とさけんで・・・」である。驚きと、うれしさがついあふれ出るくらいのうれしさだったこと、さけんで、飛び出すくらいの喜びだったことを押さえさせたい。また、1場面では、みんなに笑われながら風呂へ行くおじいちゃんが描かれているが、3場面では、マサエは、帰ってきたおじいちゃんを玄関まで飛び出して迎えに行っている。この違いにも気付かせたい。そのために、1と3の場面对比させる板書にして違いを目立つようにしたい。</p> <p>神様がいることを信じるようになったことと、昔話の人物が祖父母であることの発見の喜びから、玄関に飛び出していったマサエの心情を叙述から根拠を見つけてまとめることができたか。(ノート、発表)</p>
まとめ5分	<p>6 まとめの音読をする。</p> <p>7 学習を振り返る。</p> <p>8 次時の学習を確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったことが表れるように、3場面の一斉読をする。 ・課題をどのようにして解決したのか、学習の方法を振り返る。

わらぐつの中の神様

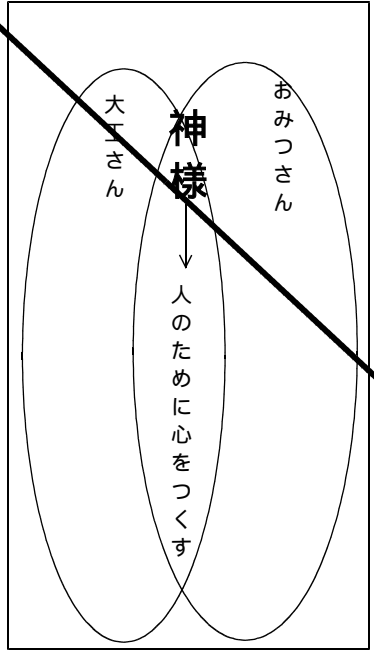
杉みき子

課 () なぜまさえは、げんかんへ飛び出していったのだろう。()

視点 マサエの会話文や行動が表れている文

一場面

「わらぐつの中に神様だって」
「そんなの迷信でしょ、おばあちゃん」
信じていない



三場面

信じている
うれしい

「この雪げたの中にも、**神様**がいるかも
しれないね」

．．人を思いやる
やさしいやる

「パチンと手をたたいて、目をかがやか
せました。」

納得

おじいちゃんが大工さんだったなんて

「マサエは、赤いつま皮の雪げたをかかえたま
ま、おかせんで、げんかんへ飛び出していきました。」
大事そう